

12月のおすすめ図書

開館時間 平日・土:9:30~18:00
日・祝日:9:30~17:00
休館日 毎週木曜、毎月第4金曜日、
年末年始
問い合わせ 宇土市立図書館 ☎(22)4512



幼児向け

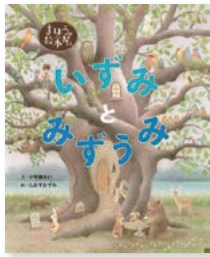
ねえだっこ
柿木原 政広 / 作
ブロンズ新社



「ねえねえ、だっこ。だっこ。だっこ、ねえ」と、りんごがだっこをせがみます。すると、バナナがやってきて…。野菜やくだものたちがだっこしてもらって、にこにことってもいい気分! 赤ちゃんのための写真絵本。

小学生低学年向け

いずみとみずうみ
小手鞠 るい / 文
出版ワークス(まほうの絵本屋さん)



大好きないずみくんつながっている大切なノートをなくしてしまった、みずうみ。まほうの絵本屋さんで、みずうみといずみくんが表紙に描かれた絵本を渡され…。「まほうの絵本屋さん」シリーズ第4弾。

小学生高学年向け

**わかりやすくおもしろい!!
元素の学校**
桜井 弘 / 監修
ニュートンプレス(ニュートン科学の学校シリーズ)



この宇宙にあるものは「元素」でできている! 水素など周期表にのっている全118種類の「元素」について、イラストや豆知識、関連情報を交えてやさしく解説する。科学雑誌「ニュートン」から生まれたジュニア向けシリーズ。

中学生向け

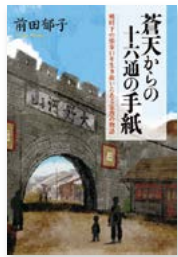
わたしはわたし。あなたじゃない。
10代の心を守る境界線「バウンダリー」の引き方
鴻巣 麻里香 / 著
リトルモア



「みんな仲良く」の呪い、毒親、ブラック校則、スマホルール、デートDV…。中高生のリアルなエピソード15話を通して、人権・同意・バウンダリー(他者との間に引く、越えてはならない境界線)の大切さを伝える。

一般向け

蒼天からの十六通の手紙
戦時下の張家口を生き抜いたある家族の物語
前田 郁子 / 著
静人舎



1940年、夫の仕事の都合で熊本(宇土市)から中国・北京に移り住んだカホル。転居した張家口で敗戦を迎え、大混乱の続く中、命からがら一家で日本に引き揚げ…。カホルが幼馴染に送った16通の手紙を元にした物語。

一般向け

暗殺
柴田 哲孝 / 著
幻冬舎



元内閣総理大臣が凶弾に倒れ、1人の男が捕まった。本当に「彼」が元総理を撃ったのか? 真相は、1人の記者の矜持が明かすのか、闇に葬られるのか。日本を震撼させた実際の事件をモチーフに描くサスペンス。

年末年始休館のおしらせ

12月28日(土)~1月4日(土)は年末年始および休館日のため、図書館はお休みになります。大変ご不便をおかけしますが、よろしくお願い致します。また、12月20日(金)は図書整理日のため休館します。なお、新年は1月5日(日)から開館します。

読書感想画コンクールの作品を展示します!

「令和6年度読書感想画コンクール」に出展いただきました作品を図書館に展示します。たくさんのご応募ありがとうございました。なお、入賞者につきましては1月号でお知らせします。

展示期間 **12月21日(土)~令和7年2月26日(水)**
※各園で展示期間が異なりますので、ご注意ください。

貸出しベスト3(令和6年度上半期)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 【雑誌部門】 | 【児童書部門】 |
| 1. 婦人公論 | 1. パンどろぼうVSにせパンどろぼう |
| 2. レタスクラブ | 2. 大ピンチずかん2 |
| 3. ESSE | 3. ころくんとふしぎなともだち |
| | 3. パンどろぼう |

※なお、雑誌については最新号の貸出しはできません。

お願い

借用中の本が破れた場合は、テープなどで処置はせずに、破片と一緒にカウンターへご持参ください。専用のテープなどで修理します。本の取り扱いには十分注意をお願いします。

第122回

温故知新 くうと学だより

図文化課文化係 ☎(23)0156

没後20年直木賞作家 光岡明

今年、宇土高校の卒業生で熊本県出身者として唯一「直木賞」を受賞している作家・光岡明の没後20年にあたります。

1 幼少期

光岡明は、昭和7年(1932)11月3日に上益城郡秋津村沼山津(現熊本市東区)で生まれました。職業軍人だった父・均の転勤で一時東京に移りましたが、小学校3年生の時に熊本市に戻り白川小学校に転校しました。昭和19年には満州(現在の中国東北部)に渡りましたが、敗戦直前に熊本に引き揚げ、母方の親戚がいた宇土町に身を寄せました。光岡少年は旧制宇土中学(現在の宇土高校の前身)に転校しました。

2 宇土での青春時代

昭和23年4月、発足したばかりの新制宇土高校に入学しました。旧制宇土中学時代を含めると、もともと多感な青春時代の6年間を宇土で過ごしました。高校時代は文芸部と演劇部に所



光岡明

属し、特に短歌や小説の創作活動には熱心で、短編小説「或る手紙」や「小さな懷疑者」を同校文芸部の雑誌「単彩」で発表しています。高校卒業後、昭和26年4月に熊本大学法文学部に進学しました。

3 二足のわらじ―記者と作家―

大学卒業後、昭和30年に熊日新聞社に入社しました。校閲部や政経部、文化部を経て、昭和41年に東京支社に異動しました。4年後に熊本本社に戻るも、昭和51年には再び東京支社勤務となり、この2度目の東京勤務時代に発表した「いづくの蟹」「奥義」「湿舌」と、熊本に戻って発表した「草と草との距

離」の4作品が芥川賞候補に挙げられました。しかし、いづれも受賞を逃しました。しかし、文藝春秋から刊行された「草と草との距離」は熊日文学賞を受賞しています。

4 直木賞受賞

昭和57年、編集局次長だった49歳の時、自身初の長編小説「機雷」が第86回直木賞を受賞しました。地方在住作家の受賞は初の快挙でした。選考委員の一人で「鬼平犯科帳」や「剣客商売」で知られる時代小説家・池波正太郎は、「この小説がもつ力感を第一に買わざるを得なかった」「構築のみごとき。登場人物の描写もすぐれていて、戦争小説の範疇をこえた力作といえる」と絶賛し、候補作7作品の中で最高評価を与えました。

昭和58年には、実在した不知火出身の霊能力者・御船千鶴子を題材にした小説「千里眼千鶴子」を発表しました。

5 晩年

昭和60年に30年間勤めた熊日新聞社を退職すると、創設されたばかりの熊本近代文学館の初代館長に就任し、県文学界の興隆に尽力しました。この他、県文化振興審議会会長をはじめ県文化財保護審議会副会長なども歴任し、当時の細川護国公知事が推進した文化芸術行政の発展にも大きく貢献しました。

平成16年(2004)7月に肺がんの告知を受け、闘病の末、同年12月22日、家族が見守るなか熊本市内の自宅で永眠しました。享年72。翌年、熊本県近代文化功労者として顕彰されました。

6 直木賞受賞作品「機雷」

太平洋戦争中、日米両海軍が敷設した水中爆弾「機雷」に魅せられた一人の海軍将校の物語。
戦時中は海軍中尉として機雷を仕掛け、戦後は米軍が敷設した機雷を除去する任務に従事した主人公・梶井。海で漂いながらひたすら敵艦の接近を待つ機雷という消極的な兵器に自己の生き様を重ね合わせ、苦悩する主人公の心情を巧みに描いた作品。



敷設 機雷を海に設置すること

【参考文献】
『新宇土市史(通史編第三巻)』